

港区長 殿

2021 年 3 月 31 日

## 令和2年度第三者評価結果報告書

〒 153-0063

住所: 東京都目黒区目黒2丁目10番5の101号

電話番号: 03-3495-4283

評価機関名: 特定非営利活動法人  
関東シニアライフアドバイザー協会

代表者氏名: 栗原 誠 印

下記のとおり評価を行ったので報告致します

### 記

評価者	評価調査者氏名		
	(1)	神戸 理	
	(2)	大場 清昭	
	(3)	山田 紀子	
	(4)		
対象事業所	放課GO→クラブおなりもん		
評価実施期間	2020 年 7 月 27 日	～	2021 年 3 月 31 日
利用者調査実施時期	2020 年 10 月 1 日	～	2020 年 10 月 30 日
訪問調査日	2020 年 12 月 11 日		
評価合議日	2020 年 12 月 1 日		
評価結果報告日	2021 年 3 月 31 日		

# 詳細講評

## 評価基準

- |   |                    |
|---|--------------------|
| a | 評価項目を実施している        |
| b | 評価項目を実施しているが十分ではない |
| c | 評価項目を実施していない       |

### I 福祉サービスの基本方針と組織

#### I-1 理念・基本方針

通番	評価項目	評価	コメント
(1) 理念、基本方針が確立されている。			
1	① 理念が明文化されている。	a	施設の運営法人は保育所運営のほか、学童保育、児童館の指定管理等の事業を柱として展開している企業です。法人理念は、会社のホームページやパンフレット、区に提示された事業受託提案書等に明記されています。この理念に基づく施設運営の基本方針として、子どもたちに温かい居場所を提供し、自主性、社会性、創造性を育み、地域社会と子どもたちがつながる施設づくりを目指すことが明文化されています。職員で共有するのはもちろん、年度ごとの事業計画書と合わせて学校や協議会に配布されています。
2	② 理念に基づく基本方針が明文化されている。	a	
(2) 理念や基本方針が周知されている。			
3	① 理念や基本方針が職員に周知されている。	a	施設理念は法人理念を踏襲しており、毎年法人の全体研修会で代表から説明されています。施設長のみの参加でしたが、本年度も7月に実施されました。職員には施設長から、施設運営の基本方針と合わせて職員ミーティング時に伝達されています。非常勤職員にも周知徹底が図られています。保護者には年2回開催される全体保護者会や学童保護者会、あるいは年1回の学童個人面談時に説明していますが、今年度に限ってはコロナ禍で思うように開催できず、新規入会者含む全員に資料送付や施設内掲示に留まっているのが現状です。
4	② 理念や基本方針が利用者等に周知されている。	a	

#### I-2 計画の策定

	評価項目	評価	コメント
(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。			
5	① 中・長期計画が策定されている。	a	施設の委託管理5ヵ年契約の今年度は2年目に当たります。管理受託時に区に提示された提案書が中長期計画に当たりますが、放課後児童育成事業(放課GO→)と放課後児童健全育成事業(放課GO→クラブ)の二つの事業を一体的に運営するための環境設定が行われています。法人策定の中長期計画に基づき施設の単年度事業計画が策定されています。今年度の目標は、「自分を認め、お友だちを認めよう」「思いやりの心を育てよう」の二つです。この目標を達成するための月例プログラム、特別プログラムがそれぞれ定められています。
6	② 中・長期計画を踏まえた事業計画が策定されている。	a	
(2) 計画が適切に策定されている。			
7	① 計画の策定が組織的に行われている。	a	学童クラブは人間力の向上を図ることを目指して計画の策定、実施が行われています。法人本部スタッフを交えた職員ミーティングで学期ごとの事業計画のコアとなる部分が決定されています。詳細な部分については前年度の状況や、利用者ニーズの変化等も考慮して、期中であっても随時見直しが行われており、利用者満足度の向上に努めています。利用者に対しては例年春のおたよりで事業計画を通知していますが、今年度はおたよりの発行が出来ていないため、施設内掲示のみとなっています。
8	② 計画が職員や利用者等に周知されている。	a	

### I-3 管理者の責任とリーダーシップ

	評価項目	評価	コメント
(1) 管理者の責任が明確にされている。			
9	① 管理者自らの役割と責任を職員に対して表明している。	a	運営は施設長のほか、学童クラブ担当職員2名、放課GO→担当職員2名の計5名でスタートしましたが、現在は増員され計6～7名での運営となっています。そのほか行政とのパイプ役等を担うエアマネージャー、児童支援実務でのアドバイス等を行うスーパーバイザーが運営に関わっています。法令順守については児童福祉や個人情報保護、秘密の保持等が該当しますが、法人でのコンプライアンス研修が毎年行われ、全ての職員が受講してコンプライアンス順守の重要性の周知が図られています。
10	② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取り組みを行っている。	a	
(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている			
11	① 質の向上に意欲をもち、その取組に指導力を発揮している。	a	評価に合わせて実施した保護者へのアンケートで15件ほどの自由意見が寄せられました。ほぼ全てが施設及び職員への満足のコメントで、施設長に対する信頼の言葉も寄せられました。リーダーシップが十分に発揮され、保護者から信頼されていると判断できます。常勤職員による朝のミーティング、非常勤職員を含めた昼のミーティング等、一日3回の情報共有のほか、毎月の職員ミーティングで課題の共有や提案について話し合い、意志の疎通が図られています。業務改善に向けた取り組みも常に行われています。
12	② 経営や業務の効率化と改善に向けた取組に指導力を発揮している。	a	

## II 組織の運営管理

### II-1 経営状況の把握

	評価項目	評価	コメント
(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。			
13	① 事業経営をとりまく環境が的確に把握されている。	a	新型コロナウイルスに関わる非常事態宣言が、4月9日に発せられたことにより学童クラブを取り巻く環境は激変しました。非常事態宣言に伴い区から利用自粛の強い要請が発せられたため、小学校の休校とも相まって利用者数はやや減少しました。施設でも期初に計画したほとんどの取り組みは、中止もしくは規模縮小せざるを得ない状況となっています。周辺情報の把握は、法人本部からのもの、区の広報誌、地域懇談会、協議会等など、様々な機会を利用して収集、解析して取り組みに反映してきましたが、残念ながら今年度は多くの機会が失われています。工作や塗り絵など月例プログラム計画の7割程度が実施されています。誕生日会は7月になってようやく再開できるようになりました。今後についても、全ては新型コロナウイルスの感染状況によるものとなっています。
14	② 経営状況を分析して改善すべき課題を発見する取り組みを行っている。	a	
15	③ 外部監査が実施されている。	a	

II-2 人材の確保・育成

	評価	コメント	
(1) 人事管理の体制が整備されている。			
16	① 必要な人材に関する具体的なプランが確立している。	a	当施設の特徴は幅広い人材がバランス良く配置されている点にあります。子どもたちから見て、年齢層が幅広い世代の職員がいることで、とても良い構成となっています。年配の職員に甘えたり、若手の職員には、高校って？、大学ってどんな所？など聞くことができ、将来への想像を膨らませることができます。非常勤職員の採用は施設で行っており、常勤職員は法人本部で行いますが最終面接は当施設で実施し、適性の最終判断を行います。人事考課については、年に2回人事考課表を用いた自己評価を実施しており、個別の目標設定も行われています。
17	② 人事考課が客観的な基準に基づいて行われている。	a	
(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。			
18	① 職員の就業状況や意向を把握し必要があれば改善する仕組みが構築されている。	a	職員の就業状況については施設長とエリアマネージャーが連携して適正な環境作りに努めています。有給休暇の取得状況についても法人本部で常時モニターしており、年5日以上取得も義務付けられています。匿名での相談が出来る様に法人本部に専用部署が設けられており、産業医による個別相談の制度も運営されています。育児休業、介護休業、看護休業の制度も完備しており、毎年秋には従業員満足度調査が実施され、職員の意向把握に法人として取り組んでいます。
19	② 福利厚生事業に積極的に取り組んでいる。	a	
(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。			
20	① 職員の教育・研修に関する基本姿勢が明示されている。	a	職員研修の目的は、子どもの安全・安心を最優先に行動できること、および子どもの発達段階に応じた対応力を身につけるための知識習得、質の向上と位置づけています。全職員が対象の基礎研修から、全体研修、階層別研修、外部研修など、多くの研修プログラムが用意されています。受講したい研修について職員アンケートを募って研修内容を決めており、具体的には児童の安全・安心、コンプライアンス、スキルアップの各カテゴリーに分類されますが、今年度については新型コロナウイルス感染防止の対応を優先しており、計画通りには実施できていません。一部研修についてはオンラインでのリモート研修に切り替えて実施されており、受講後の研修報告書についてエリアマネージャーとスーパーバイザーとで振り返りが行われています。
21	② 個別の職員に対して組織としての教育・研修計画が策定され、計画に基づいて具体的な取り組みが行われている。	b	
22	③ 定期的に個別の教育・研修計画の評価・見直しを行っている。	a	

### II-3 安全管理

	評価項目	評価	コメント
	(1) 利用者の安全を確保するための取り組みが行われている。		
23	① 緊急時(事故、感染症の発生時など)の対応など利用者の安全確保のための体制が整備されている。	a	現下の最大のリスクは新型コロナウイルス感染症で、小学校と連携してその感染防止に当たっています。4月からは学童クラブのみ実施しています。消毒、PCR検査、検温体制等を準備して安全に運営できるように努めました。防犯に関しては、管轄警察署管内で小学校はここ1校だけということもあり、定年退職した元警察官がスクールサポーターとして、毎日のように訪問してくれ情報交換も行われています。施設の壁面には付近の安全マップも掲示されています。
24	② 利用者の安全確保のためにリスクを把握し対策を実行している。	a	

### II-4 地域との交流と連携

	評価項目	評価	コメント
	(1) 地域との関係が適切に確保されている。		
25	① 利用者と地域とのかかわりを大切にしている。	a	今年度はコロナ禍の為、様々な活動が中止や延期となっていますが、できる限り利用者や地域の施設、学校等と関わり、良好な関係づくりを目指しています。8月の夏祭りは密にならないように工夫して、1週間実施したことで地域の方や関係者30名以上に参加してもらえました。地元郵便局の協力のもと、「年賀状を書こう」というプログラムも予定していましたが、今回は子どもたちが工夫をして、家に年賀状が届けられるように独自の企画になりました。隣接の中学校から職場体験の一環として数名の生徒の受け入れを行う体制は整っていますが、今年度は中止となっています。
26	② 事業所が有する機能を地域に還元している。	a	
27	③ ボランティア受入れに対する基本姿勢を明確にし、体制を確立している。	a	
	(2) 関係機関との連携が確保されている。		
28	① 必要な社会資源を明確にしている。	a	区所轄課、地元の病院や警察、消防等の電話番号は事務所内に掲示しており、どの職員でも対応できるようにしています。御成門小学校の職員とは必要に応じて各学級担任や副校長を窓口として情報交換を行い、連携が適切に行われています。年2回の運営協議会での意見交換やサポーターとの情報交換を積極的に行っていますが、今年度はコロナ禍であり他地域団体との連携については書面での交換のみとなっています。
29	② 関係機関等との連携が適切に行われている。	a	
	(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。		
30	① 地域の福祉ニーズを把握している。	a	運営協議会や地域懇談会はコロナ禍で開催が出来ない為、昨年度まで把握した地域の状況を再度確認しています。管轄警察署のスクールサポーターとは、日々の子どもの様子や地域の状況を互いに共有できるようにしています。当施設近くに芝公園があり自然に恵まれた環境にありますが、季節に合わせて様々なイベントが開催されることもあり、帰り道の子どもたちの安全には注意を払っています。
31	② 地域の福祉ニーズに基づく事業・活動が行われている。	a	

### Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

#### Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス

	評価項目	評価	コメント
	(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。		
32	① 利用者を尊重したサービス提供について共通の理解をもつための取組を行っている。	a	施設が小学校内にあるため、学校との連携を大切にした運営を心掛けています。毎年放課GO→クラブ実施要項や仕様書の読み合わせをし、確認しながら職員全員が共通意識をもって運営できるように取り組んでいます。職員の言動がハラスメントにならないよう、内部監査を年1回実施し、職員間のコミュニケーションの取り方や言葉遣いなども互いに気を付けるようにしています。子ども一人ひとりの気持ちや個性を大切にしながら、言葉かけや指導を行っています。また、プライバシー保護マニュアルに基づいて本部研修や行政での研修、施設内研修を実施し、非常勤職員も参加できるようにしています。
33	② 利用者のプライバシー保護に関する規程・マニュアル等を整備している。	a	
	(2) 利用者満足の向上に努めている。		
34	① 利用者満足の向上を意図した仕組みを整備している。	a	子どもたちの声を大切にした運営を行っています。毎日の帰りの会は、自主的に子どもが司会を担当できるように司会担当表に希望を書ける欄があります。帰りの会は職員からの連絡や注意事項になりがちですが、子どもが意見を言いやすい仕組みを工夫しています。「自分を認め、おともだちを認めよう」という目的に沿って、お互いの意見の違いを認め合いながら、日常の活動を大切にしています。また、保護者からの希望があれば、その都度面談や電話などで対応し、安心して利用してもらえるように取り組んでいます。
35	② 利用者満足の向上に向けた取り組みを行っている。	a	
	(3) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。		
36	① 利用者が相談や意見を述べやすい環境を整備している。	a	意見BOXを設けていますが、ほとんど利用はありません。子どもや保護者からの意見や要望については、日ごろから適切な対応が出来るようにしており、個人面談やお迎え時、連絡帳などで意見や要望を把握しています。気軽に相談しやすい環境づくりを日々心がけ、子育ての不安やちょっとした心配事でも相談してもらえるようにしています。保護者アンケートにも信頼の声が数多く寄せられています。入会資料には苦情受付の窓口として複数の連絡先を記載し、室内掲示や説明会時に口頭で伝える等、受付窓口が1つではないことを周知するようにしています。クレームがあった場合には、職員間で情報を共有できるようクレーム内容と対応策を記録として残しています。
37	② 苦情解決の仕組みが確立され十分に周知・機能している。	a	
38	③ 利用者からの意見等に対して迅速に対応している。	a	

Ⅲ-2 サービスの質の確保

	評価項目	評価	コメント
(1) 質の向上に向けた取り組みが組織的に行われている。			
39	① サービス内容について定期的に評価を行う体制を整備している。	a	月例の職員ミーティングでプログラム案を出し合い、年間プログラム計画、イベント計画や各タイムテーブルを作成し本部へ提出しています。プログラム実施後は実施状況や反省点を職員ミーティングで再度振り返り、報告書の作成を行って次年度の計画に反映させるようにしています。利用者から指摘があった場合はその都度ミーティングで課題を明確にし、改善策を検討しています。課題が出た際は、日々の改善だけでなく、内容によっては月ごと、年ごとに検討し改善計画を立てて実施するようにしています。
40	② 評価の結果に基づき組織として取り組むべき課題を明確にしている。	a	
41	③ 課題に対する改善策・改善計画を立て実施している。	a	
(2) 提供する福祉サービスの標準的な実施方法が確立している。			
42	① 個々のサービスについて標準的な実施方法が文書化されサービスが提供されている。	a	食物アレルギー、事故対応、災害対応、感染症防止対応など各種マニュアルを活用し、職員は迅速、安全に対応できるようにしています。日常活動やクラブ活動、プログラム等は毎日のミーティングや毎月の職員ミーティングで話し合い、子どもの意見や状況の変化により見直しを行います。コロナ禍では密にならない工夫やゾーン分けを行ったり、スポーツチャンバラ講師のアドバイスにより、右利き左利きに分かれてスポーツ活動することや、子どもの要望を取り入れて人気アニメの塗り絵マスター等を実施しました。
43	③ 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	a	
(3) サービス実施の記録が適切に行われている。			
44	① 利用者に関するサービス実施状況の記録が適切に行われている。	a	毎日の記録は業務日誌や職員ミーティング記録、支援児日誌に記入され、職員間で話し合い情報共有をしています。職員ミーティングは日に3回実施し、特に朝礼では一日の流れや各職員の動き等、職員間で丁寧把握できるように話し合いを行っています。出勤していない職員がいても、最新の状況を確認して子どもの育成にあたるように丁寧に記録を取るようにしています。法人マニュアルや行政マニュアルに則って、個人情報や記録は鍵付きのキャビネットに保管し、机上に放置しない等、個人情報が適切に管理できるように努めています。
45	② 利用者に関する記録の管理体制が確立している。	a	
46	③ 利用者の状況等に関する情報を職員間で共有化している。	a	

Ⅲ-3 サービスの開始・継続

	評価項目	評価	コメント
(1) サービス提供の開始が適切に行われている。			
47	① 利用希望者に対して活動選択に必要な情報を提供している。	b	法人ホームページに「放課GO→クラブおなりもん」の紹介がされています。毎月おたよりを発行し、入会希望者が読みやすいように漢字にルビをふったり、活動内容がわかる写真を掲載するなどしています。見学は随時受け入れを行っています。ただ、利用案内(パンフレット)などは作成されておらず、入口にも施設案内や掲示がされていないため、地域や利用希望者に施設の存在や内容を分かりやすく知らせるための工夫が必要と思われます。
48	② サービスの開始にあたり利用者等に説明し同意を得ている。	a	

Ⅲ-4 サービス実施計画の策定

評価項目	評価	コメント
(2)利用者に対するサービス実施計画が策定されている。		
49 ① サービス実施計画を適切に策定している。	a	年間計画のもと、毎月の計画、週の計画、日々の活動につなげることで継続的にサービスが実施できるようにしています。毎月行われている職員ミーティングでは、年間行事計画をもとに毎月の計画の見直しを行うことでより現状に沿ったプログラムが行われるようにしています。また、イベント実施の際には、計画書とともに報告書を作成し、次回に活かせるよう評価を行っています。
50 ② 定期的にサービス実施計画の評価・見直しを行っている。	a	

IV 放課GO→の活動に関する事項

評価項目	評価	コメント
1 遊びの環境整備		
51 ① 遊ぶ際に守るべき事項(きまり)が、利用者に理解できるように決められている。	a	入会の際には放課GO→クラブおなりもんのルールや内容の説明を行っています。室内掲示も工夫して、子どもが見やすく分かりやすいような掲示内容となるよう考慮し、一日の流れや毎月の計画などが書かれています。施設はクラブ室と体育館、校庭などでいろいろな遊びが展開できるようにしています。クラブ室では静かに遊べるゲームや塗り絵、自由工作、ドッジボールやバスケットボールは体育館、サッカーは校庭と分けて、子どもたちが安全に遊べるように環境を整えています。室内ではロッカーなどで空間を分けて、静かに遊べるゲームや遊び、たたかいごっこなどの動きのある遊びが出来るように工夫しています。
52 ② 利用者が自発的かつ創造的に活動できるように環境を整備している。	a	
53 ③ くつろいだり、休憩したりするふれあいスペースを作っている。	a	
2 保護者への対応		
54 ① 保護者同士が交流する機会が設けられており、保護者が企画や運営に参加している。	a	保護者会は年2回実施予定でした。7月には子どもたちの様子、夏休みの過ごし方について、3月には一年間のまとめや春休みの過ごし方等を議題として行われていましたが、今年度は新型コロナウイルスのために実施されていません。
3 児童への対応(核となる児童館活動)		
55 ① 職員が個々の児童の状態や心理を考慮して適切に援助している。	a	当施設は「自分を認めお友だちを認めよう」「思いやりの心を育てよう」を今年度の大きな目標として取り組んでいます。目標をもとに、日々の活動の中で子どもたちの状況やちょっとした変化を大切にして、毎日のミーティングや職員会議で共有し課題としてどのような支援が適切かを話し合っています。法人本社内で行われる研修や外部研修にも職員は積極的に参加し、情報を共有しながら、職員一人ひとりの技術の向上に努め、子どもの成長の支援に取り組んでいます。施設の土地柄、外国籍の子どもも多いため、日常の活動の中でいろいろな言語についてもコミュニケーションが上手に図れるように工夫しています。また、特別な支援が必要な子どもについては、保護者とよく話し合ったうえで子どもたちがお互いの理解を深められるように努めています。日常の活動が子どもたちの生活の場となっているという認識の上で、スポーツチャンバラの実施や、子どもが興味を持っているものを取り入れたプログラムを適切に実施できるようにしています。
56 ② 職員が個別・集団援助技術を念頭において、個人や集団の成長に向けて働きかけている。	a	
57 ③ 障害の有無や国籍の違いを超えて、児童と一緒に遊びお互いに理解を深める取り組みが行われている。	a	
58 ④ 行事やクラブ活動が、日常活動とのバランスや児童の自主性・主体性を育てることを意識して企画されている。	a	



4 利用者からの相談への対応			
59	① 利用者からの相談への対応が自然な形で行われている。	a	個人面談を全家庭対象に年1回行い、保護者からの意見や要望を聞いたり、子どもの様子を伝えていきます。保護者からの要望があった場合には、電話や面談にも随時対応しており、利用者アンケートからも、施設を信頼している声が多く寄せられています。虐待防止マニュアルに基づいて、気になる子どもへの対応を小学校校長と連携して行えるように体制を整えています。虐待防止の研修にも参加し、適切な対応が出来るようにしています。
60	② 虐待を受けた児童や不登校児への支援体制が整っている。	a	
5 障害児への対応			
61	① 障害のある児童の利用に対応する支援策が整っている。	a	特別な配慮が必要な子どもや、個別支援が必要な子どもについては、本社スーパーバイザーに月1回巡回してもらい、アドバイスをもらいながら適切な支援ができるようにしています。保護者に対しては、不安を受け止められるように面談を数回行い、身近な相談相手になれるように努めています。
6 地域の子育て環境づくり			
62	① 住民による子育て支援活動や健全育成活動を促進している。	b	委託運営事業の引継ぎから2年目のため、小学校との関係が密接になるように取り組んでいます。管轄警察署のスクールサポーターとは日々連携をして交通安全教室を実施したり、日常の子どもの様子を共有しています。帰宅時には職員が子どもたちの安全を見守る取り組みも行っています。保育園や子ども家庭支援センター、他の関係機関との連携はなかなか進んでいないようです。特に保育園に対しては、クラブの存在や内容を伝える機会を持つたり、連携を密に取れるように取り組むことが望まれます。
63	② 地域社会で児童が安全に過ごせるような取り組みをしている。	b	
放課GO→クラブ			
64	① 広報活動が適切に行われている。	a	毎月たよりを発行しており、行事予定や内容、活動報告や利用者への連絡事項、お知らせなどを文字にルビをふったり読みやすくなるように工夫しています。残念ながら今年度は新型コロナウイルス対応でほとんど発行が出来ていません。保護者会や協議会は書面での開催となりました。保護者会は説明資料を送付し、疑問点等については個別に対応しています。協議会委員には報告書類等を送付後に、議事録も送付しています。利用案内やパンフレット作成するなどして、地域や保護者に施設の存在や内容を分かりやすく知らせるための工夫が必要と思われます。
65	② 放課GO→クラブの活動内容をわかりやすく知らせ、利用促進につながるように創意ある広報活動が行われている。	b	

# 総 評

## ◇特に良いと思う点

### ● 職員研修制度が充実しています

運営法人は自社で保育所の設置・運営を行っているほか、児童館の指定管理、放課後児童クラブ、放課後子ども教室の委託運営等を事業の柱とする専門企業であり、職員の育成についても重層的なプログラムを整えています。今年度は新型コロナウイルス感染症のため十分には実施できていませんが、全職員が対象の基礎研修から、全体研修、階層別研修、外部研修など、多くの研修プログラムが用意されています。学童クラブでの職員研修の目的は、児童の安全・安心を最優先に行動できること、および子どもの発達段階に応じた対応力を身につけるための知識習得、質の向上と位置づけています。受講したい研修について職員アンケートを募って研修内容を決めており、具体的には児童の安全・安心、コンプライアンス、スキルアップの各カテゴリーに分類されています。

### ● 「自分を認め、お友だちを認めよう」「思いやりの心を育てよう」を目標にして子どもの支援に取り組んでいます

当施設は「自分を認めお友だちを認めよう」「思いやりの心を育てよう」を今年度の大きな目標として取り組んでいます。日々の活動の中の子どもたちの状況やちょっとした変化を大切に、毎日のミーティングや職員会議で共有し課題としてどのような支援が適切かを話し合っています。本社内で行われる研修や外部研修にも職員は積極的に参加し情報を共有しながら、職員一人ひとりの技術の向上に努め子どもの成長の支援に取り組んでいます。

## ◇更なる改善が望まれる点

### ● 保育園や子ども家庭支援センターなど地域の関係機関との連携の促進を期待します

当施設は運営事業者の引継ぎがあつてから2年目のため、小学校との関係が密接になるように取り組んでいます。管轄警察署のスクールサポーターとは日々連携をして交通安全教室を実施したり、日常の子どもの様子を共有しています。帰宅時には職員が子どもたちの安全を見守る取り組みも行っています。保育園や子ども家庭支援センター、他の関係機関との連携はなかなか進んでいないようです。特に保育園に対しては、クラブの存在や内容を伝える機会を持つたり、連携を密に取れるように取り組むことが望まれます。

### ● 様々な状況を考慮した危険予知訓練を、職員全体で行うことが望まれます

当施設は遊ぶ場所がクラブ室以外に、校庭や体育館を使っていますが、同時に活動する際は2ヶ所とするようにしています。また、特別な支援が必要な子どもも数名在籍しています。現在、リーダーの指導力が発揮され、子どもたちの生活も落ち着いて送っていますが、複数のトラブルが同時に発生したりリーダーが不在時の対応など、様々な状況をシミュレーションして対応方法を検討しておくことも大切と考えます。例えば写真を拡大して、一人ひとりの職員が気づいた危険な場面や遊具の置き方などを付箋を使って空いた時間に意見を書き入れ、職員全体で検討するといった危険予知訓練(KYT)の実施も有効と思われます。